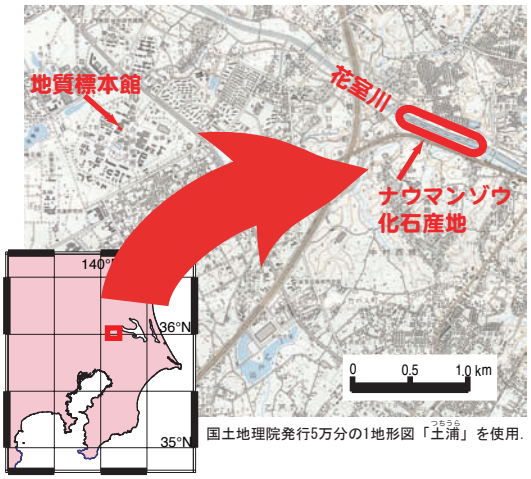
化石はどのように見つかるの？ ②

つくばにゾウがいた！！

今の日本には野生のゾウはいませんが，２万年以上前には，日本の各地にゾウが生息していました．そんなこと，皆さん信じられますか？

地質標本館から約２㎞離れたつくば市下広岡を流れる花室川中流域の河床から，ナウマンゾウを代表とするたくさんの大型ほ乳類化石が見つかっています．ここではどのようにして化石が見つかったのでしょうか？



国土地理院発行5万分の1地形図「土浦」を使用.

ナウマンゾウ化石発見場所である花室川中流域．手前が下流．両岸に高さ1～2mの地層が観察されます．

材化石や砂礫を大量に含む地層がみられます(下の写真)．この地層の中にナウマンゾウ化石が眠っているのです．この地層は約3万年前の地層です．この地層は軟らかく，台風や大雨で川が増水するたびに川の流れが地層を削り，地層に含まれていた化石が洗い出され，河床にばらまかれているのです．したがって，地層から化石を見つけるのではなく，川が増水した後に川底を探したほうが見つかることが多いようです．

河原に材木や長靴が？？　実は・・・・

ちらっと見ただけでは化石とはわからないこともよくあります．おやっ？と感じたらじっくり観察してみましょう．それが大発見につながるかもしれませんよ．

牙（キバ）

ナウマンゾウの牙の化石．木の幹のように見えますが，表面や断面の構造をみると牙と木の区別がつきます．

骨（前足）

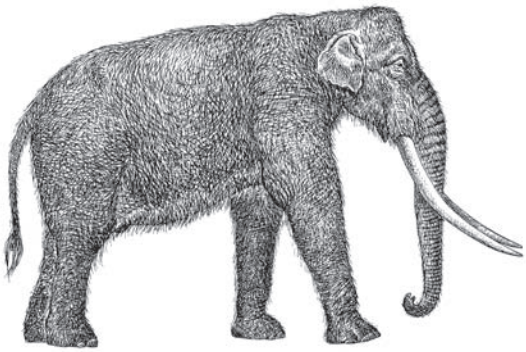
ナウマンゾウの尺骨(前足の骨)の化石．台風の後，地層から洗い出され流されて，橋の橋脚に引っかかっていたそうです．

歯（奥歯）

ナウマンゾウの臼歯(奥歯)の化石．この臼歯化石は，左上顎の第3大臼歯化石にあたり，この標本の大きさは日本最大級と推定され，ナウマンゾウの生態を知る上で重要な標本です．

発見者によれば，最初は長靴が川に落ちていると思ったそうです．

ナウマンゾウとは？？



ナウマンゾウの復元図．　鹿間(1979)を引用．

ナウマンゾウ[学名：*Palaeoloxodon naumanni* (Makiyama)]とは，今から約30万～2万年前(中期更新世後半～後期更新世末)，九州から北海道まで広く生息していたゾウの1種です．体長は5～6m，肩までの高さは約2mで，1～2mの牙を持っていました．現在生きているゾウの仲間とは，頭や顎の骨，牙などの形態が異なることから区別されます．

引用文献
鹿間時夫（1979）：古脊椎動物図鑑，朝倉書店，224p.

産業技術総合研究所
地質調査総合センター